

■児童・生徒の学力の状況

「全国学力・学習状況調査」の結果より
 ○国語と算数は、都や全国の数値と比較しても、平均正答率72%とおおむね良い傾向が見られた。
 ○各教科において、意欲的に学習に取り組む児童が多い。一方で、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の問いに対して、消極的な回答は21%と東京都や全国の数値と比較して下回った。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○児童一人一人の子供に応じた学習活動が十分に展開されていない。
 ○地域の方と子供が関わる学習活動が十分に展開されていない。
 ○問題解決をしたり、相手に分かりやすく伝えたりするOUTPUTの学習活動が、意図的計画的に設定されていない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○一人一人の児童の特性や課題に応じた学習活動を展開する。また、児童が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるようにする。
 ○一人1台端末、ICT機器を活用した学習活動を展開する。
 ○学校ならではの協働的な学習活動を展開する。特に、地域の教育力を活用した教育活動を充実させる。
 ○読み解く力の育成を基盤とした学力の向上を図る。
 ○仲間と共に学習することで一人一人の学びを深めることができる体育学習の充実を図る。
 ○基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。
 ○生活科、総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習活動の充実のために、地域の教育力を活用する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「課題設定→情報収集→分析・考察→課題解決→新たな課題設定」等の学習の流れを定着させる。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。INPUT→THINK→OUTPUTが授業の中に設定する。特に子供が主体的にOUTPUTする場面を設定する。	教科等横断的な学びを推進することと、子供が自ら課題を設定して解決していく探究的な学びを推進する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
【郷土愛の育成】 地域の教育力を生かすために、iCSの取組を推進する。特に、学校地域支援本部による地域を活かした教育活動を推進する。	カリキュラム・マネジメントの推進を通して、児童の自己決定力の育成を図る。そのために、児童の自己決定力を高める授業づくりをする。また、教科等横断的に、児童に自己決定させるような機会を意図的に設定する。	○自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるように、自由進度学習等を取り入れる。 ○Chromebookを「いつどこで活用するか」を児童が決められるような授業を展開する。